

# 世界経済の構造変化と見通し

## —令和時代の日本の経済金融情勢

慶應義塾大学総合政策学部教授

しら  
い  
白井 さゆり

- \* 2017年以降の構造変化
- \* 成長率がばらつき始めた2018年
- \* 目立つ製造業の落ち込み
- \* 高齢化を反映した潜在成長率の低下
- \* 金融政策のみならず歪み
- \* 落差広がる日米金融政策
- \* 難しい日銀の舵取り
- \* 悩ましい米中貿易摩擦
- \* 手詰まりの中国政府
- \* 金融抑圧を引き起こす



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

今日は慶應義塾大学の白井さゆり先生にお願いいただきました。文学部をご卒業になって、大学院で経済学の修士を収められ、その後、コロンビア大学で博士号を取られました。国際通貨基金でエコノミストをされ、慶應に戻られて現在教授をされておられます。ご存じのように少し前に日銀の政策委員会審議委員もされておられました。国際的に活躍されている理論派の論客でございますので、今日は世界経済の動向についての確なお話をいただけるかと考えております。それから、講演の途中で節目のところでは先生のほうから講演の内容についてご質問を受けたいということでございますので、皆さんその機会を利用して是非ご質問していただければ

と思います。それでは白井先生よろしくお願ひいたします。（拍手）

### 2017年以降の構造変化

白井 皆さんこんにちは。よろしくお願ひします。本日は皆様にお目につかれ、大変光栄に存じます。どうぞよろしくお願ひいたします。

私は世界のいろいろな国に行つて講演したり、世界の沢山の国の方々と率直に議論をすることが多くございます。昨日は、ある経済テレビ番組に出演しましたが、4月にトルコに行き講演をしたり意見交換をしてみましたので、トルコ経済や金融政策の実態について解説をしました。先週は香港の金融監督庁とニューヨーク連銀の共催の国際会議で講演し、多くの有識者や専門